

第 4 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文

コ ン テ ス ト

優 秀 賞

関 東 国 際 高 等 学 校 3 年

猪 瀬 凌 さ ん

第4回優秀賞作品  
猪瀬 凌さん(インドネシア部門)

ジャカルタを走る日本の鉄道車両と線路沿いのスラムの写真を見た私は、今後の日本の支援のあり方について考えた。そして、インドネシアへの支援は、ハードからソフトへの転換期にきたのではないかと私は考えた。

これまで日本はインドネシアに様々な支援を行ってきた。課題写真の日本の中古列車もその一つである。過去20年の間に1000輛以上の鉄道車両が輸出、譲渡されているようだ。それに伴い、都市部の人々の行き来は盛んになり、また鉄道の運転や保守点検など、鉄道に携わる新たな職業の需要も生み出した。実際、地方からの出稼ぎや郊外からの出勤、そして市民の移動手段として役に立った鉄道はインドネシアの経済成長の底上げに貢献したことは確かである。私も中学3年生の時に、数週間ジャカルタに滞在したことがあるが、活気あふれる町の雰囲気と、明るくエネルギッシュな人々から元気をもらっていたし、経済の発展を肌で感じる貴重な体験だった。しかしそ

第4回優秀賞作品  
猪瀬 凌さん(インドネシア部門)

の一方では、課題の写真が物語るように、経済格差の広がりも生まれていることもまた事実なのだ。

たしかに現在までのインドネシアへの鉄道支援は、経済発展の下支えになったことは事実である。しかし、今後はモノの支援から、教育や職業トレーニングなどのソフトの支援に転換をはかるべきだと私は考える。失業者には、ジョブトレーニングをすることで専門技能を身に付けていただき、継続して働けるようにする。トレーニングを受けることで報酬を受け取れるようにすれば、多くの失業者は熱心に訓練を受けるだろうし、彼らが就労して働けば、税収で国の財政も潤う上に、貧困層も減り、経済格差の縮小も期待できる。

たとえば、ネパールへの支援が一つのモデルケースになると考える。日本のビニールハウスなどの農業資材の支援により、高原でも稲作が可能となり、冬野菜の栽培が出来るようになった。また、ニジマスを雪解け水を利用

第4回優秀賞作品  
猪瀬 凌さん(インドネシア部門)

した溜め池で養殖し、缶詰にする工場を作り、  
現地の方々に養殖と加工の技術を教えること  
で、新たな仕事と雇用を生み出したのも日本  
の商社である。これらは初期の段階こそハー  
ドの提供と職業的訓練などのサポートが必要  
ではあるが、現在では日本の手から離れ、現地  
の人々によって運営されている。もちろんモ  
ノによる支援も初期の段階は必要だが、長期  
目線に立った人材育成の促進こそが、持続可  
能な経済活動を生み出すために必要な支援で  
あると私は考える。

東南アジア地域の発展は、日本の安全と繁  
栄にとっても不可欠である。そのため、インド  
ネシアのみならず、それぞれの国に適した支  
援を考え、何が今、必要なのかを考え続けたい。  
その国の未来を考えた持続可能な支援こそ、  
今後私たちが目指すべき多文化共生社会につ  
ながると私は考えた。

第4回優秀賞作品  
猪瀬 凌さん(インドネシア部門)

参 考 資 料 :

書 籍

佐藤百合著 経済大国インドネシア 21世紀の  
成長条件 中公新書

書 籍

岩崎育夫著 入門 東南アジア近現代史 講  
談社現代新書

ホ ー ム ペ ー ジ

JICA インドネシアに対する日本の協力の足  
跡

[https://www.jica.go.jp/publication/pamph/  
/ku57pq00002iqnxw-  
att/indonesia\\_development.pdf](https://www.jica.go.jp/publication/pamph/k57pq00002iqnxw-att/indonesia_development.pdf)

ホ ー ム ペ ー ジ

東洋経済 ONLINE ジャカルタが日本製中古車  
天国になるまで

<https://toyokeizai.net/articles/-/300209>

ホ ー ム ペ ー ジ

まぐまぐニュース 齢94歳。ネパールで最高  
栄誉を受けた日本人

第4回優秀賞作品  
猪瀬 凌さん(インドネシア部門)

<https://www.mag2.com/p/news/174479/3>